

BCJ-SAR

ISO だより

Vol.38



一般財団法人日本建築センター

The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <http://www.bcj.or.jp>Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します

我が社のISO(その30)

置賜建設株式会社
総務部 課長
鈴木 雅彦



【日々の事業活動＝ISO活動である】

当社は、ISO9001を取得してから13年目、ISO14001は7年目を迎えます。当社も最初は、認証の取得及び維持が目的となった活動になっており、実際の業務とかけ離れた規則や手順類が多く存在し、また、審査の為だけの書類作成なども数多くあり、社内でも、ISOは余計な業務を増やすだけで、やる意味があるのかという声が4年前ぐらいまで多くあがっていました。

そのような中、もう一度何のためにISO活動を行っていくのか、経営層と事務局で、事業活動の中にISO活動があることを再確認しました。ISO9001は、当社の仕事の大半を占める公共工事の総合評価の点数の向上、そして売上と利益につなげること。ISO14001は、変化する法規制へのしっかりした対応体制の確立と、環境ビジネスや地域貢献へつなげる活動であることを明確にする必要があると認識しました。さらに、労働安全、情報セ

キュリティ、コンプライアンス対応も、事業活動の中では避けられないことも認識し、事業活動のプロセスごとに、品質、環境、コンプライアンス、労働安全、情報セキュリティのリスクとして捉えアプローチしていくことにしました。

まずは実際の業務プロセスを整理し、書類や手順などをISOの手順書等と付き合わせを行い、業務に使用していない形だけのものは全て廃止し、実際に使っているものに統一しました。これにより、審査の直前に慌てて書類を作成することもなくなりました。次に、改善したことは、安全パトロールを重要な内部監査と位置づけ、リスクアセスメントの強化を図ったことです。特に、事業に与える影響を多方面から評価できる仕組みを作り、事故報告書などで運営しておりますが、事業に与える影響がわかり易くなり、その後の対応が早くなっただけでなく、他社の事故事例などを、当社に置き換えてみる場合にも有効に活用しています。

今後も、事業全体のマネジメントシステムをより良いものにする為に、ISOをさらに有効に活用していきたいと思えます。

置賜建設株式会社の概要

1949年 創業

主な事業内容：建築物の施工
土木構造物の施工

所在地：山形県米沢市

審査員の日(その34)



谷澤 勝雄
システム審査部 登録審査員
JRCA登録主任審査員

「設計・開発の検証と設計・開発の 妥当性確認」

建築設計事務所の審査をされていて感じることは、ISO9001 規格要求事項における、設計・開発の検証と設計・開発の妥当性確認の違いが今ひとつしっくりしていないと感しているように感じています。

初めに規格要求事項をみてみましょう。設計・開発の検証は、『設計・開発からのアウトプットが、設計・開発へのインプットで与えられている要求事項を満たしていること』としていて、設計・開発の妥当性確認は、『結果として得られる製品が・・・用途に応じた要求事項を満たし得ることを確実にすること』としています。

何れも、設計の結果が設計と条件を適切に満たしているかを確認することを要求しています。違いといえば、設計・開発の検証で対象としているものは設計のアウトプット(すなわち設計図書)であり、設計・開発の妥当性確認は、結果として得られる製品(すなわち建築物と考えた方が妥当と思います)の用途となっています。

以下、私個人の独り言として、設計・開発の検証と設計・開発の妥当性確認の違いを、設計からのアウトプットの違いからアプローチをしてみます。

建築設計には、「法への適合・構造設計・建築設備設計等のハードな側面」と「建物の目的に応じた視覚イメージ・使用目的に相応しい空間デザイン・建物の使い勝手・居心地等のソフトな側面」とがあると思います。

「ハード設計」の成果である設計図書の検証は、一般的には設計担当者の検図等の方法で設計と条件を適切に満たしているかを確認しているように思います。

一方で、「ソフト設計」の結果は、ISO9000 における用語の定義(※)による検証がちょっと難しいように思えます。

このような比較的ファジーな要素についての確認は、妥当性確認という言葉のほうが馴染みやすいと、私は思っています。例として設計責任者による査図・設計検討会・設計説明等によるデザインレビュー(規格要求事項における設計・開発のレビューとは違う意味です)などで、設計と条件を適切に満たしているかを確認しているのではないのでしょうか。

設計・開発の検証の作業イメージとしては、複数の人々が集まってやるというより個人作業の感じがしますし、結果として残される記録は、チェックシートとか、図面等への書き込み等になると思います。また、設計・開発の妥当性確認は、複数の人々が集まって協議しているイメージで、その結果は、議事録等になっていくものと思われれます。

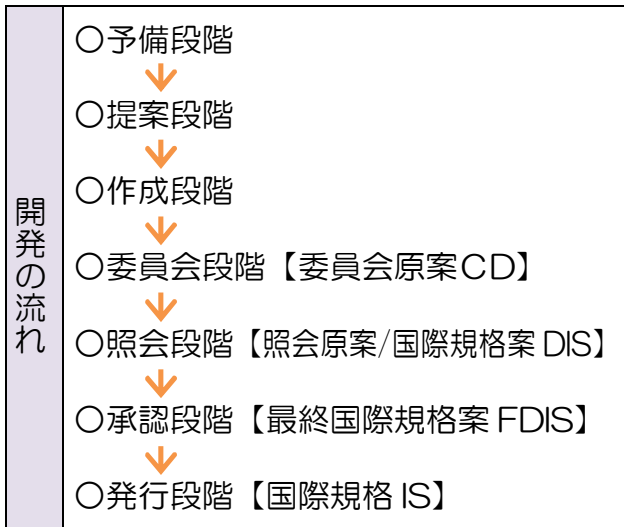
少しは参考になったか心もとないですが、何れにしても、設計・開発の検証と設計・開発の妥当性確認のどちらかの名前をつけるかが問題でなく、設計事務所では、普段展開している設計プロセスの中で、結果として、設計・開発の検証と設計・開発の妥当性確認は行われているはずだと思います。

(※) 検証：注記2.

確認には次のような活動があり得る。

- ：別法によって計算を実施する。
- ：新しい設計仕様書を類似の証明済みの設計仕様書と比較する。
- ：試験及び実証を行う。
- ：発行前に文書をレビューする。

マネジメントシステム規格の 改正状況



◆《品質》ISO9001の規格改正は国際規格案(DIS)の作業段階に

ISO9001規格の改正は、2013年6月に発行されたCD(委員会原案)に対するコメント・投票が完了し、11月12日付けで、CDをDIS(国際規格原案)として登録という段階に進みました。その後、各国代表組織に回付され、今後、DIS(国際規格原案)、さらにFDIS(最終国際規格原案)という段階を経て、2015年の改定に向けて順調に作業が進められています。現在のところ国際規格(IS)として発行される予定は、2015年10月頃とされています。

◇《環境》ISO14001の規格改正は委員会原案(CD2)について投票

ISO14001規格の改正は、委員会段階で、2回目の委員会原案(CD2)が作成されて、2013年10月23日から3ヶ月間の投票が行われました。今後のスケジュール(予定)2014年7月頃にDIS(国際規格原案)が発行され、さらに2015年3月頃にFDIS(最終国際規格原案)の発行という段階を経て、現在のところ国際規格(IS)として発行される予定は、2015年5月から6月とされています。

規格改正についてのご案内

一般財団法人 日本建築センターシステム審査部(BCJ-SAR)では、品質、環境マネジメントシステム規格の改正内容が明らかになってきた段階で、規格の内容、新規格への対応についてなど詳しい説明会を開催する予定です。その際は、皆様にご案内を差し上げますので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

■ 2014年度認証判定会議の日程は下記の通りです ■

品質、環境とも同日開催です。当センター(東京都千代田区)にて開催致します。

| 2014年(平成26年) | |
|--------------|--------|
| 4月23日(水) | 13:30~ |
| 5月28日(水) | 13:30~ |
| 6月25日(水) | 13:30~ |
| 7月23日(水) | 13:30~ |
| 8月27日(火) | 13:30~ |
| 9月24日(水) | 13:30~ |
| 10月22日(水) | 13:30~ |
| 11月26日(水) | 13:30~ |
| 12月24日(水) | 13:30~ |
| 2015年(平成27年) | |
| 1月28日(水) | 13:30~ |
| 2月25日(水) | 13:30~ |
| 3月25日(水) | 13:30~ |

■再認証を迎える組織の皆様へ■

審査時期によっては、審査が混み合う事が予想されますので、余裕をもってマネジメントシステム認証申請書（品質／環境）をご提出いただきますようお願いいたします。（マネジメントシステム認証申請書の他に「マネジメントシステム認証申請者調査表」のご提出が必要になります。）申請書及び調査表は、一般財団法人 日本建築センターホームページよりダウンロードできます。

(<http://www.bcj.or.jp>)



編集後記

今年は、全国各地で大雪による様々な被害のニュースがテレビ等で報じられています。各組織様の地域はいかがでしたでしょうか？雪に弱い首都圏だけでなく、関東周辺の各県でも交通網の分断によって生活必需品などの物資が不足し、日々の生活に深刻な影響を及ぼしています。そのような中で某製パン会社の方の機転の利いた対応は、非常に心温まるものでした。この方のカブが上がったの言うまでもなく、この会社の株式も上がったそうです。

私も久々に雪かきをしましたが、翌日は筋肉痛になり家でゴロゴロしていたところ、子供からは苦情を言われ、家庭内での私のカブは下がってしまいました。